

事業概要書

事業名	地域住民の手で作る、祈りの場「3.11 祈りと絆の花火「白菊」」継続開催支援事業				
開始日	2022年3月3日	終了日	2022年3月31日	日数	28日
団体名 (カウンターパート)	3.11 祈りと絆「白菊」実行委員会				
担当者名	廣田 一樹	スタッフ人数	20人		

事業費総額(税込)	1,800,000円
CF事業枠	500,000円
その他資金	1,300,000円

事業目的	3月11日祈りの花火「白菊」の打ち上げを通じて、コロナ禍にあっても被災地と犠牲者に心を寄せる地域住民、そして日本全国の人々と共に、復興の誓いを新たにする場を提供するとともに、継続的な開催が可能な体制作りを行う。
事業全体の概要	<p>●祈りの花火「白菊」とは</p> <p>第二次世界大戦に出兵し、シベリアに抑留された経験がある、新潟県長岡市の嘉瀬誠次氏が、故郷への帰還がかなわなかった亡き戦友たちに捧げるために作った追悼の花火である。戦友が眠る地に限りなく近いロシアのハバロフスクで1990年に初めて打ち上げられた。以来、8月1日の長岡空襲の日、8月15日の終戦の日をはじめ、各地で鎮魂の花火として夜空にたむけられた。</p> <p>その後白菊は追悼の花火として、2015年には米国ハワイ州ホノルル市の真珠湾フォード島で、「太平洋戦争終結70周年追悼式典」を開催された際には、両国の戦争犠牲者の慰霊と世界の恒久平和を祈って打ち上げられた。</p> <p>このように「白菊」は「慰霊」「復興」「平和への祈り」の嘉瀬氏の願いが込められているため、通常のイベント等では打ち上げられることはない。</p> <p>(ちなみに日本最大の正三尺玉(しょうさんじゃくだま)やナイアガラは嘉瀬氏が発案したもので、世界各地で開かれる記念式典などでもたびたび打ち上げられている。)</p> <p>嘉瀬氏が抱き続けているのは、「世界中のすべての爆弾を花火に替えたい」という願いである。※山下清の「長岡花火」は嘉瀬氏が上げた花火が題材となっている</p> <p>2019年にこの追悼のために上げられている花火があると知った釜石のメンバーが、嘉瀬氏へ東日本大震災の被災地である釜石市での花火打ち上げを依頼したところ、快くお引き受けいただき、当市でも2020年から「白菊」を打ちあげていただけることとなった。</p> <p>打ち上げ場所は鶴住居地区全域(人口約3700名)、また半島部(隣町の大槌町も含</p>

む) から花火が見えるよう、大槌湾内の海上から打上を実施。

●白菊実行委員会とは

当会では、3月11日は亡くなった方への追悼と同時に、地域の希望や未来そして大切な人を想う日という思いの元、地元出身の若手メンバーを中心に構成されている。この花火をきっかけに普段は各々仕事をするメンバーが一同に集まり、毎年の祈りの在り方を考え3月11日の命日を迎える。

祈りの場づくり自体は、震災の翌年から有志が中心となって行ってきたが、震災から10年目を境に外部からの支援も減少したこともあり、これからは地域の人々が中心となり、自分たちで祈りの形を考え、次世代へとバトンを繋いでいきたいと思いのもと活動を行っている。

そのためにも、地域の方を中心に色々な方々から寄せられた思いやメッセージを、当日打ち上げる花火玉に貼り付けてその思いとともに夜空へと打ち上げる。

また地域のこどもたちにもこのメッセージを書いてもらうため、学校内にもメッセージボックスを設置している。

●取り組むべき課題

誰もが参加できる「祈りの場」の確保

震災から10年が過ぎ、自治体レベルでの追悼式典の規模縮小や継続そのものの必要性について議論されている地域もあるが、それでも、何年経っても思いをひとつにして祈りを捧げられる場を確保しつづけることは地域住民全体にとって必要である。

当会では遺族だけに限らず、それ以外の方々でも時間や場所にとらわれず、自由にご参加いただける「祈りの場」を、花火を通じてこれからも確保しつづけていく。

現在、実行委員会は委員長の同級生で構成されているが、次代の実行委員会は実行委員長と同級生たちが後を引き継ぐといった形で、地域の次の世代へとバトンタッチを行いながら、それぞれの時代でその世代が考える祈りの在り方で、この祈りの場が継続していける仕組みづくりを行うこととしている。

花火の打ち上げにあたっては、3月11日は火災予防週間の最中であることから、陸上からの打ち上げはしないようにと消防より指導があった。そのため、台船を用いて会場からの打ち上げを行っている。この台船は、震災の時にたった一艘だけ残った船であり、遺体の搬送から瓦礫の輸送の一切を引き受けたという物語がある。さらには昨年よりももっと沖合からの打ち上げをという指導もあったため、打ち上げ準備に2日間を要することとなった。この打ち上げに使う台船を沖合に引っ張るには、5隻の船が必要である。台船の曳航のために船を出してくれる人たちの多くが家族を亡くし、この台船のお世話になっているため、仕事を休んで快く協力をしてくれている。これから長く地域住民でこの催しを続けていくためにも、協力してくれる方には相応の謝礼金を支払いたいが、今年は昨年あった助成がなくなってしまう難しい状況である。例年、地元企業を中心に寄付をお願いしていたが、今年はコロナ禍で苦しい状況にある経営者たちに寄付

のお願いをすることはばかられたため、止む無く断念した。また震災から 10 年が過ぎたということもあり、助成金関係の確保も難しく、資金調達が急務となっている。本協働事業により台船にかかる経費を含む開催費用を確保することで地域の負担を軽減することができる。

来年度以降については地元企業、町内会を中心にご寄付を募り、また例年を通して寄付のお願いができるよう、市内店舗に募金箱等を設置しながら寄付を募る。また、今までに当市とご縁があった個人、企業にも寄付を募る予定である。そして、協働事業でオンライン配信することでより多くのひとたちにこの取組みを知ってもらうことで、地域の負担だけで継続するイベントではなく全国への支援を呼びかけていくきっかけとしたい。

●パートナー協働プログラム対象事業

3 月 11 日「白菊」の打ち上げとオンライン配信

10:00 鵜住居祈りへのパークにて献花

11:00 打上準備開始

18:50 オンライン配信開始

19:00 花火打上（天候により時間変更あり）

19:15 打上終了

なお、この花火の打ち上げにかかる準備や実施後の反省会などには、地元の若い世代を中心とした有志にも参加してもらうことで、次の担い手は自分たちだという意識を醸成し、長く続くイベントの土台作りも行う。

【配信場所】

岩手日報 YouTube チャンネル

2021 年白菊打上ライブ配信 視聴者数 3,847 回視聴（2022 年 2 月 24 日現在）

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=-wRmtiZwAAs&t=614s>

●期待される効果

①3 月 11 日の最後の祈りの時間の確保

市内各所では日中追悼式典、ならびに追悼イベントが実施されておりますが、一日の最後に想いを馳せる時間として追悼の花火を上げる。

この花火はご遺族だけでなく、どなたでも可能で、日中仕事等で追悼イベントの参加が難しい方でも、参加がしやすい時間設定とした。

②花火師（地域外）とスタッフ間の交流

例年、打上後には花火師さんとの交流の場を設けている（※本年は新潟県が蔓延防止対象地域のため中止を予定）。花火師や地域外からボランティアとして参加する人々とス

	<p>スタッフ間の交流を行うことで絆も深まり、このイベントを長く続けていくための土台が作られていく。</p> <p>③<u>域外の方々との繋がり</u>の確保</p> <p>当日の様子を岩手日報社 YouTube チャンネル内にてオンライン配信することで、コロナ禍において当市へ訪れることのできない方へ対し、当地域とのつながりを確保ができる。</p>
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
① 3.11 白菊の打ち上げ及び実行委員会の基盤づくり	<p>市内住民 1000 人</p> <p>オンライン視聴者 2000 人</p>